

祭五十七年命之大人一郎敬積保故
祭五十七年命之自刀大ウヤチ積保故

祭 靈 慰 燈 万

大和の光

10月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話(代)022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋

八咫鏡と太陽をかたどったもので、国家の隆昌と世界の共存共栄を意味しております。

霊言の助け合い、心の助け合いがあって、人間は初めて正しい方向へ歩めるようになる。
(大和神典第三之〇八九言)



九月は一日に月始祭、二日に教化会議をなす。教師等には奉務に対する心得を厳しく諭し、十月一杯までの教化展開にては、改めて今後のことを大神の大御心を拝することになるであろうことを告ぐ。

八日には、第一回「おやこのつどい」を開催す。若い親子に日本の神様のことを、スクリーンをもつての紙芝居をなし、解り易く解説、大縄跳びや綱引、パン食い競争など、体を動かしながら楽しい一日を過ごした。参加者の皆さんの誰もが素晴らしい笑顔となっていた。

この集いの主催者として、教務総長が、「笑顔の力」について教えを紐解いた。我が大和のスローガンである、「笑顔のこぼれる家庭を築きましょう」の実践の一環ではある。これからの老若男女、善男善女のどなたもが参加し、明るい笑顔の一日を神さまのもとで過ごして頂きたいものである。

十四日には秋のみたままつりである万燈慰霊祭が斎行され、併せて祖父保積敬一郎之命と祖母保積チヤウ之命の年祭も斎行された。

灯明の御明りやランタンの明りにて祭壇大前を装飾させて頂き、幽幻の世界を醸成させて頂いた。尊い大和の祈りによって御霊等は清められ慰まれたものと信念するものである。

大和帰神詞に「大和帰神祝詞(たわかしんのまさこと)の奉唱は我(われ)に真理の自覚(めざめ)を催告すると共に 祖霊諸魂にも聞

こえ 迷えるも治まらざるものこの言霊(ことたま)を受け納めよ万象は神の御心(みこころ)の表現(あらわれ)にして 人の言霊(ことば)は神の御意(みこころ)を告げ 万物に通じ 遠き高山の涯でも深海の底も届かざる事なく 過去も未来も心を込めし言霊は 遠近の差別なし」と。大和の祈りの尊くも奇すしき力を現わす一文ではある。

祓禊(みそぎ)の教えに「天界地底踏破卓立・此の身此のまま神身となる」のごと、私どもの命は此の世だけの命ではなく彼の世での命がある。生き通し生きるとは、此の世も彼の世も生き続ける顕幽一貫、幽顕

勇

勇

教主秀胤

一如の世界観がある。大和は神の御心なりとの教えと相まりて、神界・現界・霊界の三界の調和が大神の御意思といえよう。

自分だけの自国だけの繁栄を欲する余り、弱者を傷つけ殺め、国土を始め資源を略奪する行為は調和の世界ではない。

大和はこうも説いている。

「大和は神の御心にして 大調和は世の発展の基礎なり 善と悪とは元来(もと)は一体にして 調和すべきは世の姿なり 大調和に離反する念(こころ)を これ善と片寄りに信ずるはこれ悪なり 永遠の調和はこれ善にして無限の弥栄を導く」と。

一方的な正義を振りかざし、強権をもって弱きを滅ぼす戦争はあつてはならぬものである。共に存し共に栄えよとの日本思想の一つでもある「共存共栄」の社会を、世の中を造ることが大神のご意思と心得るものである。今世は真逆の悪走りの世の中といえよう。

大和は争いのない神界楽土の世界を造ることにある。

大和は今、御命持神法教傳セミナーを開催している。信奉者の皆が一人が五人を善導し救済するという神行である。此の世での大なる徳を積み、神界参入の手形を賜る神業ではある。

万燈祭に引き続いての秋の御行である六根大行での私の講義では「五と六と十一」の数意について解かせて頂いた。

そして、人体は宇宙の象徴たることを。私たちの全てが大宇宙よりの命を賜りしごとを解析するものである。一切を救う力は万物一切に感謝する力と説く。

感謝の力の真義、真奥を深く己が身に修める精進こそが、万物一切の弥栄への道となることを感体して頂きたいものと。

大和の祈りと感謝と奉仕の生活の実践にこそ、その光明のあるを。信奉者の誰もが此の身此のまま神身となるの、大和信仰の大道を歩んで頂きたいものと乞ひ希うものである。

千早振る 神の御末の我なれば

身心永遠に 神のまにまに

大神の 恩頼の 吾が生命

世人のために捧げ尽くさん

令和七年九月二十五日

教主 秀胤

故保積敬一郎之命七十五年祭 故保積チャウ之命七十六年祭 万燈慰霊祭



斎主教務総長による祝詞奏上

い音色が殿内に響鳴した。
午前十時三十分、参進太鼓を合図に、斎主教務総長以下祭員が参進、開祭詞が告げられ、修祓之儀が行われた。

次に参列者一同による御霊火献灯之儀が行われ、祭壇前には教母様はじめ信奉者が奉持なされた御霊火が奉献された。

続いて、斎主祈念招霊之儀の後、斎主拝礼、開祖様御尊父保積敬一郎之命・御母堂保積チャウ之命の式年祭詞が奏上され、万燈慰霊祭祝詞が奏上された。

斎主十表祓にて一切を清められ、大和帰神詞奉誦に

九月十四日、大國神社祈禱殿において『開祖様御尊父・大和惟神の祖神と称え奉る故保積敬一郎大人之命七十五年祭・開祖様御母堂・大和之脇祖と称え奉る故保積チャウ大刀自之命七十六年祭』、並びに『万燈慰霊祭』が厳肅、且つ盛大に斎行された。大前には万燈提灯が宇豆高く奉獻され、祭壇大床には霊光麗しき灯明の御明りと幻妙なる七色の光を放つ灯明が飾られ、幻想的な情景が醸し出された。



斎主教務総長による十表祓

続いて、火水之清浄(ひみずのきよめ)の神事が執行された。
斎主玉串拝礼の後、総裁家、参列者による玉串拝礼がなされ斎主祈念昇霊之儀を以て祭儀は修められた。
祭儀後、畠山真由美教務部長と田中道敏教化部次長より、教話がなされ、結びに教務総長よりご教話を頂き、万燈慰霊祭は滞りなく申し修められた。

教務総長御教話

皆さんご苦労様でした。有難うございました。年毎の御霊光を拝しての御霊慰めの御祭をお仕えさせて頂きました。私の曾祖父、曾祖母である故保積敬一郎之命と故保積チャウ之命の年祭を併せてお仕えさせて頂きました。開祖様の御尊父保積敬一郎様は、開祖様を神ながらの道へ誘い導びられました。大変な神通力、祈禱の力のある方で、満州に渡り易学など様々な学びをされました。

開祖様の御母堂様は、開祖様が幼少の頃から体が弱く何度も死のうと思われた中で、開祖様を案じ尽くされました。開祖様のご修行を重ねるうちに、岩手県大船渡市の綾里にて海と山の気が交わる所で死をも覚悟を決めて修行をされるとお誓いされ行に入られた時にも、御母堂様は開祖様と一緒に参られてお支えになられました。保積敬一郎様、保積チャウ様のお陰様をもって、私もこうして命があるのです。大和教団も創立され大國神社もこの世に顕されたのです。本当に有り難いことです。この思いも込めて、皆さんと一緒に祈らせて頂きました。

万燈の御霊光を通し、皆さまの大切な尊い命を受け継いで下さったご先祖様、代々の父母、そして縁の御

霊様も併せて、今日は万燈の光で霊界をも明るく照らして、皆さんの心も明るくして祈らせて頂きました。皆さんのご先祖様、そして万物一切の御霊様達は皆さんの祈りを受け納めて下されたを信念するものです。皆さんは今日お祀りされた御霊様の子孫です。何と親孝行な子孫だと本当に喜んでいいことでしょう。

今日の御霊光は如何ですか。ご先祖様、霊界の御霊様達はどう思っているでしょう。御祭の姿も未来へと段々進化しております。

さて、皆さんは父母の命を受け継いでいます。お母さんのお腹から「あやあ」と生まれたわけですが、生まれてから何処へ向かって生きておられますか。言い辛いことですが、死に向かつて、あの世に向かつて、見えない世界に向かつて、一分一秒寸時も止まることなくあの世に一直線に向っております。何時あの世からお迎えが来るかも分かりません。神様から頂いた尊い命・魂を煌々と輝やかに、光輝かせて、あの世に向かつてです。必ず行きます。

あの世に行く時に持つて行けるものは唯一、心・思いだけです。金銀財宝等、何も持つてはいけません。す。どんな心・思いをあの世に持つて行けば、あの世で永遠の幸せが得られるでしょう。どんな心と意思を持つて魂の世界に行きましようか。

人の為に貢献して徳を積み、感謝の心しかないのです。この世で他人(ひと)様の為に、そして本当に有難うと言う感謝の心を持つて行くことです。生まれてから幾十年と生きる中で、その間に思ったこと、口に出したこと、人に家族に対してしてきたことの全てが宇宙意識に記憶されています。今迄、善いことを思ったり、悪いことを思ったり、善い事を言ったり、悪いことを言ったり、善い行い悪い行いをしたりと、一人

ひとりの全てが神様の宇宙意識に記録されています。あの世に行った時に、大國主大神様は皆さんの心、魂を見定めて下さいます。神様やご先祖様の明るい世界へ行きたいものです。今生きて来て、善と悪のどちらが多いでしょうか。今からでも遅くはありません。ともに頑張りましょう。皆さんには感謝と笑顔の稽古を旅立つ瞬間までなさって欲しいものです。一日一日、旅立つ瞬間まで一分一秒に全てに感謝です。何処へ行っても笑顔と感謝です。些細なことにも、「ありがとう」と言える心をつくりましょう。開祖様は、「この世においては笑顔で生きなさい。あの世に行く時は若やいで、少女のような心で行きなさい。」と、申されました。皆さんもこれから生きていく上で大和の信仰をしつかり実践しながら他人様を助け、この御社に導く、そして、開祖様 教主様が目指

しておられる世界平和萬民幸福の世界、大和の信仰生活をもって、そこに向かつていきたいと願っております。感謝と笑顔の稽古を忘れないで下さい。何時の間にか人間は感謝を忘れて横柄となっておりま。皆さんが今座っている椅子も、ただの物とは思わずに感謝をすれば心も明るくなるでしょう。喜びもどんどん出て来ます。人間同士だけでなく、身の周りの物だって私達のために働いてくれています。食べ物もそうです。「あなたの命を頂かせて貰います。私頑張りますから」と。色々な命を頂いて食事をしているのですから。そこに感謝が出来ない人は大和の信仰者ではありません。大和の信仰は、「和讃」です。どんなことがあっても大國主大神様の大御心、相手のことを思いやり、譲るという心を皆さん一人ひとりがつくりながら、幽世へ行って頂きたいと思ひます。



大和立教六十八周年

秋季立教例大祭
心願成就大火祭祈願祭

令和七年十一月三日(祝)

午前九時三十分

大國神社

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

身体加持祓三種祈禱 六根大行



総奉行教主様による幽顕和合火祥神事が執行された

九月二十、二十一日の両日に亘り大國神社において大和教団三大行、六根大行が行修された。

第一日目は先ず、幽顕界の参行者が教主様によって大前に言上げされ厳かなる幽顕和合火祥神事が執行された。御神火は幽顕界一切の邪霊邪気を祓清め、三界調和の和合をなす神秘の火祥神事を拝し奉った。

修祭後は記念写真を撮りて教主様による御親教を賜り、大和神学を基に深淵なる宇宙真理学、大和神教学の深き学びを頂いた。小休憩後、第一座目を畠山真由美教師先達により身体加持祓祓詞、三種神言、六根清浄大祓詞、加持祓詞、三種大祓詞、神語奉称が順に執り行われ、引き続き、第三座を田中道敏教師が先達し、邪氣五臟六腑加持祓祓詞をもって三種神言、六根清浄大祓詞、加持祓詞、三種大祓詞、神語奉称が厳修された。

清掃奉仕の後、夕食にて感想を語り合い、一日目は早目の就寝となった。

翌二日目は御本殿にて午前五時より早朝参拝を行い、祈禱殿に場を移し、一同輪となつて田中道敏教師先達による天鳥船神事を行い、次に、御本宮にて熊川知長祭儀部次長先達による心願諸願達成行が修され、神拝詞を基に夫々の祈願を言上げた。

続いて祖霊殿へと移動、出雲大社教団・出雲大社教第五代管長で本教大國講名誉総裁であらせられた故千家達彦大人之命の十年祭がしめやかに斎行され、斎主熊川知長祭儀部次長により祝詞が奏上され、一同感謝の誠をお捧げ申し上げた。

浄霊帰神行が修され、参行者一同の御祖之霊神、守護之霊神、前世之霊神、閑縁之御霊が浄霊帰神をすべく幽冥主宰大神の御救いを賜りての拝神行となった。続く第五座は横尾匡彦教師が先達となつて行修し、三種神言、六根清浄大祓詞、各加持祓祓詞、三種大祓詞、神語が只管に奉唱され、身体の内潜む邪氣一切を祓い禊ぐべく一心に祈念をなした。

結行となる第六座は教主様もご参座なされ畠山真由美教師が先達とな

りて鎮魂霊動法が行われた。皆心静かに瞑想しつつ肉体、靈魂の歪みを矯正していき神々の御稜威を賜りながら身魂の浄霊をはかった。

結びに教主様による御親教を賜り大和神学、宇宙真理、人体の神秘、六つの根のお話し、神数、神音、神象、五大信条等多岐に渡りご教授頂いた。引き続き、教主様による修了奉告祭が修められ、参行者一同に修行之証が授与された。

行修後、参集殿へと移動、直会をお仕えし、感謝の誠心を持ちながら季節の膳を頂き、清々しき新しき身魂となつての帰路となった。

教主様御親教

皆さんご苦勞様でした。よき行であつたかと思ひます。

行の結びの第六座、「六」という数です。

六根(ろっこん・むつのね)とは眼・耳・鼻・舌・身・意です。世の中はますます悪しき者共が蔓延り、霊界も此の世もそうです。その中であなた方は、どんなことにも打ち克つ魂を鍛えるのが行なのです。

たかが二日間の行ですが食事を節制され、睡眠も短くされての行を執ります。当たり前の生活と同じでは行にはなりません。行中は俗世の話もしてはいけません。

先ほどの行は鎮魂霊動法といい、私も何年か通つて学ばせて頂いた行法です。これは病気を治す為につくられました。自分の力で体を治す自然治癒力をつけるもので、一週間位致しました。温泉旅館で一日に三回位一回二時間程の行を執りました。合間に温泉に入りとにかくゆったりとするのです。この行に段々と神道

の行法を取り入れる動きとなつていき私には大変勉強になりました。柱人(はしらびと)という行の中心となる人がおられ、先輩格から並んでいき、参加度数の低いものは後ろに並んでいきます。柱人は全ての姿を見ることになりまふ。自由に動いて良いとされ、霊的なものを持つている人はそれが出来て来たら蛇みたくになる等の色々な現象が見られ恐ろしいものです。暴れたり大声を上げたりする人は抑えなくてはなりません。靈動を、憑き物を抑えるだけの力がないと柱人は務まりません。私はそれをまた独特のものに昇華して整えて参りました。

五臟六腑とは訓読みで、「いくらむわた」と読みます。祝詞は清音が殆どで、濁音は少ないのです。

「五」の数にはどんな意味があるでしょう。五の数意とは運勢的には大吉祥で非常に良い数という事です。神様の精神、偏らない、真中、宇宙を表す数字、中道と、どれも神様の心、天照大御神の浄明正直の心です。戦争が行われていますが、何の為にするのでしょう。自分の欲だけではないのでしょうか。六という数は吉凶相半ば。吉は良いこと凶は悪いことで、お御籤にもあります。

大和は、「言葉ほど尊いものはない言葉ほど恐ろしいものはない」と教えています。音声と文字を言葉と云います。拝むという事は音声と文字を読んでいることになりまふ。いわゆる言葉なのです。五と六、六は良いことも悪いことも相半するもの。離合集散する。「むすび」とは産み出すこと。言葉を生むのもむすび。紐を結ぶ、子供を産むのもむすび。睦み合う男と女。おにぎりもむすび。日本は「むすび」の文化なのです。日本人は世界で一番素晴らしい民族です。礼儀正しく優しい、思

いやりの心をもつ民族です。

「大和の精神は心のふるさとでありよりどころである」とありますが大和の精神とは何でしょう。他国は自国さえ良ければ何でも良いという国ばかりで、日本は共存共栄の素晴らしい民族です。大和の精神とは、天地自然ながら「神様の精神」という事です。

五臟六腑は訓読みで、「いくらむわた」、六根清浄は、「むつのねきよら」と云います。行で得たものを役立たせて生きた行にして力として下さい。こういう教えがあります。

「人間不幸になりたくば 感情を露わにすべし」

「人間小事の成就を望むなら 感情を抑えるべし」

「人間大事の成就を望むなら 感情を捨てるべし」

「人間永遠の幸福を望むなら 一切を神に捧げ尽すべし」

生活の中で怒つたり怒鳴つたり、感情露わな言葉を多く使っている家庭は絶対に調和しません。荒ぶる波動だからです。ちはやふるといふ、これは螺旋の波動です。荒ぶる波動とは激しい怒りを表し破壊です。

大和は大調和です。大きな仕事を



するなら感情は捨てるということですから。さすれば「神は一切を与える」としてあります。

開教神宣に「我を敬い信するものには 不自由はさせまいぞ」とあります。我が大國主大神様には大和の開教神としてのお働きがあります。大きくものを産み与えるという力。大物生大神様と称えます。ものほものでないという、ものを産むのは心魂といひます。その心を鍛える行が六根大行でありみそぎ大行も然り。完成が十種大行となります。

御命持神法教傳セミナーにて、受講者に三五行を実行するを伝えました。一つに五人結びの善導奉謝行、二つに三十万遍神言奉唱行、三つに一千遍姓名浄書行を実行するを。五の数は大吉祥、調和の数、神様の数です。そこに自分が入ると六となり五と六の数字なのです。これを行うと、大きな力がもらえるという事です。皆さん自身が祈りと感謝と奉仕を教え共に信仰をなすということですから。我々は幽世で永遠に生きるのです。その力、栄養分をこの世でつくり上げるのです。この行もそうです。神拝禱を裏返して。天界地底踏破卓立。天も地も貫き、この世も

あの世も生き通し生きなさい、幸せになりなさいということです。

一から十の数で、九から十は人間の力では及ばぬ神様の世界です。

神様への他力本願で、この世での利益は頂けたとしても、あの世での世界でもご利益を頂けるかはあります。

「お前も祈り感謝と奉仕の生活をしなさい」と云うことです。今の多くの皆さんは祈りも満足でない、感謝の心もつくっていない、奉仕もしていない人が多いのです。神身と成るには祈りと感謝と奉仕をしつかりして、特に心をつくることです。

天皇陛下は、畏くも私たち国民を、「お前も祈り感謝と奉仕の生活をしなさい」と思召し下されておられます。今は親が子を、子が親を殺してしまふ。日本も今や仏教という地獄です。

大國主大神様は、「大和の大御名でこの世を清め為せ」と申されました。穢れて、穢れて、気候も大荒れに荒れて、豪雨や竜巻が起きるなど以前とは変わってしまいました。天地を狂わせてしまいました。文明開化で高々二百年ですが環境を破壊するだけ破壊してしまいました。私たちは何処に向かうのでしょうか。神拝詞の大和の心を聞いて、きちんと手にして下さい。

「私たち人間をはじめ この天地自然にある 万物一切のものはすべて 宇宙の大元霊のみたまをうけて存在している人間はただひとりでは 生きていられるものではない 万物一切を産霊だされた神様をはじめ 多くの人や もののおかげによって 生かされ 生きて生きている

大和の精神とは それらの大きな恩恵に報いるために 祈りと感謝と奉仕の生活を 実践することである」大和の祈りとは天地宇宙の神々に万物一切に先祖にです。大和皇大神様は造化三神、全とおさまりし宇宙の大元霊なのです。大元の霊(ヒ)なのです。私たちの根っこが弱かったら立つてはいられません。だから先祖供養、感謝をしなさいと云うのです。

祈りは天地の神々に、自分の五臓六腑に響かせるということです。大和の教えは万物一切の弥栄です。その為に万物一切を生かす心を養いなさい。神ながらは自然のまにまに、自然体と云います。天地自然の律動に合

わけることです。自律神経は神の波動に結ばれています。心臓も脈拍もそう。自律神経と自律神経はつながっています。それに逆らうから壊れてしまふ。いわゆる大和は神なりです。我々は大和の神を称え誉めること、広めることです。

開教神宣を聞いて下さい。「吾は大國主であるこの教えを世に樹てるには 吾は大きくものを産み与えるぞものを産むとは 人の心を産み出すことである 人の心ぞこの心ありて 始めて万物を 産み出すことができるのである

ただものを産み出すのではない魂であるぞ 魂ではない おおきな心ぞ人として生きてゆく心 魂であるぞ 吾を敬い 信するものには 不自由はさせまいぞ これよりは 大和の大御名で この世を清め為せ」

人の心を、自分の心をつくりなさい。生み出して感謝して、伸ばしていくのが人生です。そして魂である。人間は小道、神様は大道(だいどう・まさみち)です。人を導くこと、これが一番の奉仕です。簡単にして、ものが頂けることなどありません。実りのある苦勞です。真剣に布教して下さい。

大祭では皆が一つになって、世界の平和を祈り、争いを無くす火祭祈禱を謹修します。その中にささやかな自分の願いも込めます。天皇陛下も国民全てが豊かに栄えるようにと祈念なされておられます。しなやかな柳のような強さが大和の心です。私たちは母のお腹から、「あぎやあ」と息を吐いて生まれるのです。吐いて吸う。人に施して恵みを頂くのが法則です。神様の喜ぶ奉仕をす

れば必ず救われるのです。大和拝は、全人類を救うという力があります。五と六に結ばれ、合わせて十一。九から十という神様の世界を、自分の心の中に此の世に築くのです。楽しんで幸せはありません。誓詞を聞いて下さい。

「私たちは神の子の本義を自覚し心身の行程を是に追従せしめ 衆生を大和の神庭に善導き清め 大和御祖の 言寿ぐ教理を 良く実行 以って天稟の靈寵援護を得 永久に 神の幸福を完受し 感謝に明け暮れ奉謝の念に燃え 光明世界の現に貢献せん事を誓う 親神大和皇大神守り給へ幸へ給へ」

これを実践すれば「此の身此のまま神身となる」のです。神様の心に副って生きなさい。大和の心に副って歩みなさい。世の人々を大和の教えの庭に導きなさい。それが五人を導く奉仕です。

開祖様の温かな御教えを守りなさい。五大信条「和心・感謝・信念・努力・実行」を心して歩みなさい。神様は守って下さいます。感謝に明け暮れ、しつかり奉仕しなさい。この地上を争い無き天国、神の国に致しましょう。

大和の信仰を柱とすれば、しっかりとした生き様が出来ます。神拝詞十一頁の五大信条は大和信仰の目的です。和心はなごみの心、柔らかな心、やわし心の心、これをやまと魂と云うのです。和とは一文字で、やまととも読みます。一霊四魂(ひとひ よたま)です。荒魂・和魂・幸魂・奇魂の働きが、和心なのです。万物一切に感謝です。感謝は天地宇宙に自分の命に父母にも広がり行くのです。天地の恵み。太陽と空気と水、大地は万物を育む。大海原。この地球、我々の命も七割が水です。

信念は大和という信仰に基づく信念をつくる。挫けない。そして努力と実行です。思っているだけでは何もありません。絶対に挫けないという信念をもって努力・実行です。一日は二十四時間しかありません。時は金なりと申します。五臓六腑は頼まれなくても、一所懸命働いています。

皆さん両手を合わせて打って下さい。音が誕生します。男と女、親子、力を合わせましょう。我々は含み手といつて中は少し空気を入れます。合掌はびたつと付けます。四拍手祈念は、神様への感謝、思いを含めて力を合わせるの意味を込めた独特の祈りです。全世界を救うという意識をもって、大和拝をします。大國主大神様が、お授け下されました。大きく広く幸せを与えて下さいと、全世界の人に御神徳を与えて下さいと。自分だけではないのです。

此の世で為したことは全て宇宙の意識に記憶され、決して消えることはありません。色々な祈禱をしますが、恨み辛みの念が強いまま亡くなった人は、此の世と彼の世の境目に留まり浄められた霊界へは行けないのです。一千年、二千年でも時間に関係なく彷徨い続けます。不幸は不幸としてずっと続きます。

それが神霊界の掟だからです。それを私は知りました。ですから必死で拜むのです。本当に赦しているかどうかです。表面だけでは分かりません。だから必死での真心を込めなければ、赦す筈はございません。そういう御霊の動きを感じる訳です。私はあなたの方の知らない世界で、それだけの思いを込めてお仕えしております。

私が救うのではなく、大和で救うのです。神々が私を使つて下さるかどうかなのです。私はそうして自分の身を魂を捧げます。普通の祈りではありません。信仰も自分でしなれば、今迄は他力だけの人が多かったですが、それでは三でしかありません。あとの七、神様のところへ行くと、自分で拜んで大和の神様と結ばれるしかありません。

私も皆さんも神様の命を頂いております。全てに宿っております。それを感じた時に、今日も命を頂いたと、本当にしみじみ思わなくてはなりません。あらゆるものに、自分の身体の内臓にも、ありがたうなのです。今日もしつかり働かせて頂きまして、先ずは自分の命に感謝して下さい。我々は人ですから、働かなくてはなりません。

大和の祈りを繰り返す行うことで自分の祈りは世界を清めているという奉仕の心に向けることです。全ては、思う力なのです。大宇宙を思う力を持たらこんなこと位となる訳です。

日本の国を守らねばという人は、自分の家族を守ること等簡単です。家族だけを守ろうという人は、家庭は守れません。大きな世界を守らねばという心があれば、自分の悩みは小さいものです。そういう考え方をして下さい。

大和の祈りを大らかな気持ちで祈って下さい。何遍も繰り返して下さい。必ず伝わります。一人が五人を導く奉仕を先ず立教例大祭を目指して頑張ってください。出来ないことなどありません。皆さんにお話したことを、どうぞ復習して、自分の命に感謝して、そして奉仕です。



教主様より御親教を賜わる

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましよう

第一回おやこのつどい



御本宮広前にて和やかに記念撮影



祈禱殿拝殿にて出雲神話「因幡の白兎」が説かれた

九月七日午前十時
大國神社において第
一回「おやこのつど
い」が開催された。
おやこのつどいは
笑顔のこぼれる家庭
と人生を願われる人
のために生きる智恵
を学びながら信仰に
触れる機会をもって
頂き、皆さんと綱引
きやパン食い競争、
紙芝居など、さまざ
まなレクリエーショ
ンを通して年代を問
わず、共に楽しいひ
とときを過ごすもの
です。

祈禱殿拝殿に集合
した参加者は、教務
総長から「笑顔」を
テーマとして大和の
言霊の御教えを紐解
いて頂き、続いて田
中道敏教化部次長に
よるスクリーン紙芝
居「因幡の白兎」が
上映され、大國主大
神様の登場される出
雲神話の教訓を通し
信仰について楽しく
学ばせて頂いた。
次に、参加者一同
は輪となって自己紹
介を行い、「笑顔」
について夫々思い思
いに語り合った。
続いて御本宮内拝
殿へと移動、熊川知



祈禱殿拝殿にて大縄跳びが行なわれた



大國広場にて綱引きの好勝負が繰り広げられた

長祭儀部次長より神様のお話を頂き
更に教務総長より御教話を頂いた。
祈禱殿拝殿では、紅白のチームに
分かれて大縄跳びが行われ、老若男

女問わず、汗だくになって競技に参
加し、休憩を挟んでのパン食い競争
では、年齢を問わず夢中になって駆
け回る姿に参加者は大いに沸いた。
気温が三十度以上に上がったこの
日、屋外での唯一の種目として大國
広場において綱引きが行われた。紅
白チーム対抗の接戦となり試合は大
いに白熱した。
競技を終えると、参集殿レストラ
ンにおいて懇親会が開かれ、手づく
りのおむすびやパン食い競争の特製
パンを感謝して和やかに頂いた。
結びに御本宮において記念撮影が
行われ笑顔での解散となった。

「おやこのつどい」はお爺さん、
お婆さん、お孫さん、ご両親、
お子さん、また、お一人でも、
どなたでも、ご参加頂けますの
で、お気軽にご参加下さい。

皆様のおこころに感謝と
御礼を申し上げます

教主様 傘寿 記念
教統継承三十年 記念
教書出版事業協賛者御芳名

- | | | | |
|--------|----------|-------|------|
| 篤志奉賛者 | 教主様 | 石田佳余子 | 吉田 来 |
| 保積 志胤 | 平松 千明 | 釧持 敦子 | |
| 遠藤 恭子 | 匿名者七名 | | |
| 随意奉賛者 | | | |
| 羽黒山三光院 | (山田工務店) | | |
| 榎イトイン | 大越隆文・貴志子 | | |
| 竹本 梯子 | 菊地眞知子 | 八嶋 健嗣 | |
| 渡部 きよ | 熊谷 親子 | 水谷 貴子 | |
| 東 太三 | 今田としゑ | 鷲尾 雅子 | |
| 高橋 優子 | 千坂ひろみ | 工藤江利子 | |
| 熊谷由美子 | 小野 秀子 | 熊谷 浩 | |
| 小野寺清夫 | 斎藤せつ子 | 八巻 宏美 | |
| 川村ヨシ子 | 須田 英 | 紺野 匡彦 | |
| 本田 和彦 | 島山 公 | 横尾 匡彦 | |
| 田中 道敏 | 須田 公 | 島山真由美 | |
| 品川 弓 | 熊川 知長 | 鏡 令宏 | |
| 川村由美子 | 匿名者十四名 | | |

開祖様御生誕
百十八年祭

開祖様記念映像 『おやさま』 上映
教主様記念講演 『大和を語る』

令和七年十二月七日(日)

午前10時開祭

お揃いでご参列をなされ
開祖様に感謝の誠をお捧げ
下さい



大和教団ホームページ URL
<https://taiwakyodan.org/top/>

大和教団ホーム
ページでは教主様
のお言葉(ブログ)
が日々更新されて
おります。
大和教団のこと、
祭典行事の紹介、
入会案内、ご神託
霊媒・祈禱等各種
のご案内、正しい
信仰生活などにつ
いて詳しくお伝え
しますので、どうぞ
ご覧ください。

11月行事予定表

- | | |
|--------|-------------|
| 11月1日 | 朔日火祥神事 |
| 11月2日 | 秋季立教例大祭前日祭 |
| 11月3日 | 秋季立教例大祭 |
| 11月5日 | 神光龍神祭 |
| 11月11日 | 親神感謝祭・祖霊万霊祭 |
| 11月15日 | 月次祭・五講祭 |
| 11月22日 | 七五三 |
| 11月25日 | 開祖祭 |
| 11月28日 | 一年の御神託祭 |
| 六根修養会 | |

12月行事予定表

- | | |
|--------|--------------------------|
| 12月1日 | 朔日火祥神事 |
| 12月5日 | 神光龍神祭 |
| 12月7日 | 惟神道統百二十八年
開祖様御生誕百十八年祭 |
| 12月11日 | 親神感謝祭・祖霊万霊祭 |
| 12月15日 | 月次祭・五講祭 |
| 12月22日 | 冬至星祭 |
| 12月25日 | 開祖祭 |
| 12月28日 | 五段大祓之神儀 |
| 六根修養会 | |
| 12月31日 | 大祓 |



斎主教主様による祝詞奏上

故川村春見大人之命追悼御霊鎮魂之儀

永年に亘り本教護持伸展のために
ご貢献を下されました元責任役員の
川村春見さんが、四月十七日、九十
四歳の生涯をもって帰幽なされまし
た。
謹んでご生前のご功績を偲び御霊
の安らかならむことを、お祈り申し
上げます。
十月一日午後二時より、大國神社
祈禱殿において、教主様の斎主にて
故川村春見大人之命追悼御霊鎮魂之
儀がご遺族ご参列のもと、しめやか
に斎行されました。



千家達彦管長先生への感謝の祝詞奏上



千家達彦先生

千家達彦先生を偲びて 十年祭の感謝の祈りを捧ぐ

六根大行二日目を迎えた九月二十一
日、大國神社祖霊殿にて、本教大國講
名誉総裁・出雲大社教統・出雲大社教
第五代管長であらせられた、千家達彦
先生がご帰幽、神上がりなされてより
十年の御祭が斎行された。
斎主熊川知長祭儀部次長先達のもと、
参行者一同にて綾瓊神歌にて千家先生
のご遺徳をお称え申し上げ、感謝の祈
りが捧げられた。開祖様の御心を基に
教主様より願ひ上げての、千家達彦先
生との奇麗なる御神縁を拝し奉ったも
のである。
私共の大國講の為に多大なる御力を
賜りし御恩に改めて感謝を申し上げ、
千家達彦先生をお偲び申し上げさせて
頂いた。
参列者一同は千家達彦先生の本教へ
のおこころを心して、世の為人の為に
更なる善導救済にお仕えさせて頂くこ
とをお誓い申し上げた。

延命長寿祈願祭



斎主事務総長により信奉者の皆様の健康長寿が祈念された

金剛蔵王大神年祭

九月十四日午前九時、万燈慰霊祭
に先立ち、金剛蔵王大神社広前にお
いて、斎主教務総長のもと金剛蔵王

九月十一日午前十時三十分、大和
神光祈禱殿において、斎主平松事務
総長のもと、延命長寿祈願祭が執り
行われ、教信奉者の皆様の健康長寿
を御祈念申し上げた。
祭壇には海川山野の種々の神饌物
が供えられ、斎主平松事務総長によ
り延命長寿祈願祭祝詞が厳かに奏上
され金幣拝戴の儀が修められた。
斎主玉串拝礼の後、参列者による
玉串拝礼が申し修められた。
大和の大神様の御守護を拝し、皆
様の健康長寿を心より祈念申し上げ
る次第である。



金剛蔵王大神様への感謝の年祭が斎行された

だいこくさま
みて
大國主大神様の御手にすぎり
幸せにみちびかれましょう



あなたの一声が
多くの人を救います

大神社年祭が斎行された。
修祓之儀の後、御扉が開扉され斎
主拝礼、金剛蔵王大神社年祭詞が奏
上された。参列申し上げた崇敬者を
始め一同は祈り言を奉唱し、玉串奉
奠を修め一年間の大神様のご守護に
心より感謝を申し上げた。

総裁選に思う

長かった夏も終わり、秋の気配
が訪れて参りました。仙台も連日
三十五度の猛暑日となり、寝苦し
い夜が続きましたが、暑さ寒さ
も彼岸まで」とはよく言ったもの
で、彼岸の頃からめっきりと涼し
くなりました。

そんな中、九月七日に石破総理
の退陣表明以降、政局は一気に過
熱し、政治の世界は今尚熱い日々
が続いております。昨年十月の衆
院選挙、七月の参院選挙でも大敗
衆参ともに過半数割れを喫した責
任を取る形での退陣でありました。
選挙で敗れた総裁は責任をとつ
て自ら身を引くというのが、自民
党内では政治文化であることは周
知の事実ではありますが、当時の
世論調査では退陣不要が総裁選挙
前倒しを上回り、また石破辞める
な！デモまでが展開され、右派は
退陣を左派は続投を支持する異様
な状況でもありました。お互いの
足を引っ張り合い、国民は置き去
り、本来、国民の生命と財産を護
るべき政治の役割が全うされず、
多くの政治家が自身の保身、選挙

に勝つことこそが一番の目的とな
っている感否めません。
大和の教えに照らしますと、全
一観なく、中心もなく、本末が過
っており、時処位の全てが破壊さ
れているのが現状の自民党、しい
ては日本の政治ではと思うところ
です。
かつて田中角栄元首相は「自民
党は国民のためにあるのであって、
派閥のためにあるのではない。」、
「国民のためにあることをやる。」、
「自民党が壊れるなら、それも仕方
がない。」と豪快に語ったと伝え
られています。正に今の国民の思
いそのものではないでしょうか。
現在、総裁選には五名の方々が
立候補をしておられます。何方が
なられましても「自民党のために」
ではなく「国民のための政治」を
貫いて頂きたいと願うものです。
刻々と変化する世情において、
大和の信仰者の皆様におかれまし
ては、どんな状況下であっても、
苦しいれば苦しい時ほど、大和の
信仰生活を基として、明るく豊か
な日々を過ごして頂ければと願う
ものです。
(平松千明)

神光殿月例祭事のご案内

毎月五日 神光龍神祭

神光龍神様は出雲の龍神であり、大和教団発祥の聖地をお授け下さり、
大和の守護神と称えられております。土地の売買を始め万事の幸福を
結ぶ龍神様です。

毎月十一日 親神感謝祭・祖霊万霊祭

親神感謝祭は、神様に感謝の祈りを捧げ、信仰の神教縁を結び固める
大切な一日です。また祖霊万霊祭は、ご先祖様を始め、縁ある御霊様、
万物一切の御霊たちに感謝の心を捧げる祭事です。

毎月二十八日 六根修養会

修行には積極的に行き、一ヶ月の罪穢れを祓い清め、清々しい身と
心となることです。